

# 絵画技法の基礎知識 II

～フェルメールとルーベンスの模写体験～

講師 元ルーブル美術館修復員・絵画修復家

加賀 優記子



先回行った「絵画技法の基礎知識」の講義では、ルネサンス期から現代までの様々な絵画技法と下地との関係と、今と昔の画材の質の違いについての理解を深めるために、テンペラ用の水性下地、生キャンバスを木枠に張って、白亜とにかわと重合リンシートを混合した半油性下地と、鉛白をリンシートで練ったファンデーションホワイトで油性下地を作ることを体験しました。



今回は、パートIで作成した地塗りキャンバスを使用して、下地と溶き油基本的な関係を学びつつ、フェルメール、ルーベンス等の作品の模写を行い、時どのような溶き油を調合して、巨匠が実際に制作していたのかを体験しま

## 〈講師紹介〉 かが・ゆきこ

1982年武蔵野美術短期大学油絵専攻科卒業。84年渡仏、パリ国立美術大学に学ぶ。86年ルーブル美術館修復家クリストフ・クシェジェンスキー氏に師事。クシェジェンスキー氏の弟子として、ルーブル美術館契約修復員となり、ルーブル宮殿天井画、コンゲルの間、ドラクロワ作サルダナパリュスの死、その他の修復作業に従事する。92～94年フランス国会議事堂ドラクロワ天井画他修復研修。90年「鎌倉美術修復工房」設立。ルノワール、モネ、ピカソ、レジェ、フジタ他日本の画家多数修復。IIC(THE INTERNATIONAL INSTITUTE FOR CONSERVATION)会員。